

老舗名	黒江屋 A組 5班
Q.1&2	今と昔で漆器に使う素材はどのように変化しましたか。
A.1&2	漆器は古くから素材に木地を用いてきましたが、昭和30年(1955)以降、プラスチックの素地にウレタン塗装を施した合成漆器が多く誕生してきています。木製品、合成樹脂製品それぞれのメリット、デメリットがありますので用途に合わせて使い分けられます。
Q.3	外国人向けに作られている商品はありますか。
A.3	特に外国人向けに作られているというわけではありませんが、桜や富士山といった日本を象徴する柄の入った商品は人気です。
Q.4	どんな人がどのような時に買いに来ますか。
A.4	お買物に来られる客層は中高年の女性の方が多いです。また、海外のお客様ですと比較的若い方も多いです。買物のタイミングは人それぞれで、お祝いの品や海外のお土産、会社の記念品を求めて来られるお客様もいます。年に数回のセール期間中は、普段よりもお客様が多くなります。
Q.5	季節によって模様などを変えたりしますか。
A.5	商品：花の絵が描かれている商品は、季節や月毎に花の絵が変わります。また、桃の節句や端午の節句、クリスマスといったシーンに合わせた柄のものもあります。 レイアウト：お店のレイアウトは、シーズン毎に変えています。お正月なら重箱、雑煮椀、屠蘇器をメインに、夏には涼しげなガラス器や竹製品を展示するなどしております。
Q.6	昔から作り続けている商品はありますか。
A.6	漆は縄文時代から使われており、江戸時代の後半になると、漆器が一般庶民の間にも普及するようになりました。しかし、漆を用いた製品は昔から高価なものでしたので、下地に柿渋を使うなどして庶民の手に届くようにされていました。現在においても形はほとんど変わっていませんが、お箸は同じ製品でも長さ違いのものができるなど、時代に合わせて変化していています。
Q.7	人気のある商品を教えてください。
A.7	売れ筋は汁椀、箸です。漆器の中では一番メジャーでどの家庭でも使われているといえます。また、最近ではiPhoneのケースやUSBメモリーといった現代ではかかせないアイテムも人気です。
Q.8	赤と黒以外の色はありますか。
A.8	色漆は精製作業の工程の中で、金属を加えて化学反応させたり、顔料を入れることにより黒、朱、白などの漆の色を作ります。一般的な漆器の色としては、黒、朱のほかに「溜(ため)」という色があり、黒や朱といった色漆そのものの色ではなく、色漆を作る際にベースとなる褐色味の強い透明な漆(主に朱合漆)を厚めに塗り仕上げる事によって表現する色です。また、合成塗料ではより多彩な色表現ができます。
Q.9	漆器はどのくらい使い続けられるのですか。
A.9	一般的に下地がしっかりしていて、漆を塗った回数が多い程耐久性が高く、ものによっては10年以上使い続けられます。また木製の漆器は修理もできますので半永久的に使い続ける事も可能です。しかし、漆器は乾燥に弱いのでずっとしまっっぱなしにしていると、いざ使おうと思った時に割れてしまう事があります。

Q.10	これから漆器を広めるために、どんな工夫をしようと思っていますか。
A.10	漆器はなかなか若い世代には手に取ってもらえる機会がないと思います。それには、漆器は「高価なもの」「扱いが難しい」というイメージや、陶器やガラス、プラスチック製品といった漆器に取って代わるものがどこでも手に入る、現代のライフスタイルに合わないなどいろいろな要因が考えられます。また、下手をすれば日本人よりも外国人の方が漆器の良さをより理解していますので、まずは低価格帯の商品を用意して漆器の良さを感じて頂き、産地と協力しながら少しずつ消費者のニーズに合わせた商品の開発や固定観念にとらわれない自由な発想によるデザインのものを作っていきたいと思っています。